

いわ 嶽 神社の棟札

塩津の奥深い山中にあった八幡宮を訪れたことをきっかけに、清崎の小代地区の棟札を調べる機会に恵まりました。

巖嶽神社は、明治十二年(一八七九)に八幡宮、白山大権現とともに合祀されています。棟札は二十一枚あり、この管理・保管について地区の関係者の方々が検討されました。地区の戸数の減少が危惧され現物保管の他に、資料のデジタル化も含め、建設中の資料館に委ねることになったようです。



巖 嶽 神 社

二十一枚の棟札の内一番古い棟札は、文禄二年(一五九三)の記載があり、新しいものは大正十三年(一九二四)の記載がありました。棟札の表裏に記載がありが十三枚、表書のみ記載は八枚でした。また、長さ、幅、厚さ、材質等形状は様々で、記載内容も多種であり、統一された形式はありませんでした。

三社について

【巖嶽神社】岩竹の表記も有

創建 文応元年(一二六〇)

祭神 木花之開耶姫命

棟札 五枚

【八幡宮】

創建 文禄二年(一五九三)

祭神 菅田別命

棟札 十一枚

【白山大権現】

創建 不明

祭神 白山比売命

棟札 四枚

※他に合祀棟札一枚

この三社は、再建・修理などが繰り返され、変遷を辿って現在に至っています。

掲載棟札について(一例)

(表)上部「」の以字は、祈禱札や棟札に印され、福田寺のお札にもあります。この印は諸説があり、真意は不明です。

以字の間の文字は、梵字です。仏様を梵字一字で表す種子として用いられ、この例では、地藏菩薩を表しています。この梵字は、「カー」と読みます。

また、種子に用いられる梵字は四国八十八ヶ所巡りなどの納経帳や、宝篋印塔・卒塔婆にも使われています。

また、裏面の上の梵字は、

裏面梵字



諸仏一切結合の意を表し、「ポロン」と読みます。下の梵字は、「シ

リ」と読み、妙吉祥に変じるラツキーなものとして使われています。

その他(表面の参考用語)

大僧都・僧正の次の位
法印・僧侶の意
本源・僧侶の名前
一字・一棟の建物

終わりに

二十一枚の棟札の内五枚は未読で、課題としています。棟札から小代の先人たちが、崇め祀り、寄付を募り、ひたすら願う想いを連綿と受け継いできたことを知ることができました。

資料を提供していただいた福田寺様、古文書の読み取りに協力くださった方々、地元の関係者の皆様に感謝申し上げます。

(設楽町文化財保護審議委員

田邊 雅己)



奉造立岩竹大明神宮殿一字氏子繁昌祈所

正徳二壬辰歳

遷宮導師長江山普門院權大僧都法印本源

卯月吉祥日

神主

金田彦太郎

大工

塩津村丸山彦左衛門